

令和8年度 施設管理運営事業評価票(令和7年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立大型児童センター			
所在地		宝塚市売布東の町12-8			
指定管 理者	団体名	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会	指定期 間	開始日	令和3年4月1日
	所在地	宝塚市安倉西2丁目1番1号		終了日	令和8年3月31日
選定方法		非公募	評価実施年	指定期間5年のうち5年目	
施設設置目的		児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするため。			
主な実施事業		①児童の健全な遊びの場の提供 ②児童の遊びの指導 ③児童のクラブ活動の育成及び指導 ④児童の自主活動及び自主サークル形成の支援 ⑤児童館の統括及び運営指導			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	利用人数	人	25,000	29,852	30,000	30,876	24,000	28,472	30,000	32,549
b	1日当たりの平均利用者数	人	-	88.85	-	92.17	-	88.42	-	96.87
c	18歳未満の子どもの人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数	回	1.01	1.16	1.17	1.21	1.21	1.34	1.36	1.3
d										
e										

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度決算
収入計		34,166	34,376	33,785	33,855
	指定管理料	33,517	33,517	33,517	33,517
	利用料収入	119	55	36	43
	自主事業収入	0	0	0	0
	その他	530	804	232	295
支出計		33,954	34,280	32,665	33,517
	指定事業費	33,954	34,280	32,665	33,517
	内、人件費	22,624	23,097	23,137	23,709
	内、再委託料	4,349	4,350	3,989	4,624
	自主事業費	0	0	0	0
事業収支		212	96	1,120	338
利用料金比率		0.3 %	0.2 %	0.1 %	0.1 %
人件費率		66.6 %	67.4 %	70.8 %	70.7 %
再委託費比率		12.8 %	12.7 %	12.2 %	13.8 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注)自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A
		外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A	
	市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A	
緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A	
財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A	
《 総 括 》		「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
②サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A
		言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	事業運営	事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A
		施設の目的に添った自主事業を実施している。	A	A
	維持管理	事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A	A
		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A
	環境配慮	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A
広報活動	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A	
苦情等対応	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A	
	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A	
	要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
利用者アンケート等	利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A	
利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A	
《 総 括 》		「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A
③安定性	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
	《 総 括 》		「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)		・来館者数は目標数を上回った。コロナ禍以前の数値に戻りつつある。 ・世代間交流拠点プログラムのBEプレミアでは、プレミア探検ツアーを子ども家庭支援センター・ファミリーサポートセンター・子どもの権利サポート委員会・老人福祉センターの協力の元で開催し、参加した小学生がプレミアの各部署の取り組みについて学ぶ機会となった。募金箱づくりでは、老人福祉センターで募集したシニアボランティアと小学生とが交流を行うことができた。 ・フリースクールに通う子ども達の企画として、毎月1回のバドミントン同好会が立ち上がった。また、プレミア女子会についても継続的に開催し、出席扱いを希望する児童が通う小学校の校長が見学に来られるなどの動きもみられた。 ・ミニたからづかについては、今年度、小学1年生の市民募集を再開、実施した。大きなトラブルもなく、昨年度よりも参加者数の増加にもつながった。一方、子どもリーダーの応募人数は例年よりも少なかった。		
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)		来館者数が前年度実績及び目標値を上回ったことから、実施された各企画や日々の運営が子どもたちのニーズを的確にとらえたものであったと評価できる。学校に行きづらい子どもについても、学校側との連携が進んだことで、当施設が子どもたちにとって「安心できる居場所」として認知されたともいえる。 複合施設の強みを生かしたイベントの実施は、異世代がお互いに支え合い、理解し合う地域コミュニティの醸成に寄与するものであると考えるので、今後も注力されたい。 ミニたからづかについては、時代の潮流をとらえた事業手法の工夫や見直しも視野に入れつつ、これまでの成果を基盤とした更なる発展を期待する。		
前年評価		A	総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。